



失敗のアベノミクスを看板に参院選

窮鼠猫を噛むときが近づいている

山下 カ・なら人権情報センター副理事長

腹が立ってしかたがない

日本人はいつからこんなにやさしくなったのか。「やさしい」なんて言葉はちょっと違うような気がする。そうや、怒らなくなったんや。うん、これがぴったりやと思う。去る6月1日、安倍首相の記者会見をテレビで見ている身震いした。ひさしぶりの身震いである。安倍曰く「今そこにあるリスクを正しく認識し、危機に陥ることを回避するため消費税率の10%の引き上げを延期します」。そして、かかる言説が公約違反ではなく、“新しい判断”であると言うではないか。一体、何が安倍晋三をしてこんな傲慢な態度を許しているのか。我が国の政界は今、自民党一強。そして、その自民党は「安倍一強」だからなのか。



齢75歳に近づいて家族から「認知症でないの?」と指摘されることもある小生だが、一昨年11月18日に安倍首相がぶち上げた解散記者会見をよく覚えている。会見の要旨はこうだった。

①デフレ克服への道半ば。2015年10月に予定していた「消費税率10%への引き上げ」を2017年4月まで先延ばしさせてください②財政再建の旗を降ろすことは決してありません。国際社会で我が国の信頼を確保し社会保障を次世代に引き渡していく安倍内閣の立場に一切の揺るぎはありません。(10%への消費税)再び延期することはないと断言します。「三本の矢」をさらに進めることによって、必ずや、その経済状況を作りだすことができる③アベノミクス推進、景気回復、この道しかない④国民に信を問うため衆議院を解散します。

これが国民との約束でなくて、何なのか。しかも、経済状況次第で増税延期に道を開く「景気条項」を消費増税法から削除することを命じたのは安倍首相ではなかったのか。

アベノミクスは失敗した

安倍首相は「まだ道半ばだが、アベノミクスは確実に結果を生み出している」と、うそぶいている。安倍政権発足後に円安と株高が進み、輸出産業を中心に企業の業績が好転したのは確かだ。しかし、肝心のわが国の経済実質成長率は極めて低いままではないか。「物価や賃金を引き上げて経済の好循環を作る」とした政権の思惑は実現していない。3年半前に安倍政権が掲げた「三本の矢」はどうなっているのか。大量の財政資金を日銀に用意させ、「国土強靱化」のインフラ整備に無制限に流し込んできた。現状はどう結果しているのか。大企業や裕福な個人投資家の受けた恩恵に比べ、中小企業や大多数の労働者への効果が乏しいとの国民的評価は定着している。デフレ克服の障壁と、政府が言い訳に使ってきた「原油価格の低迷」がなければ、中小企業や国民生活へのしわ寄せはまことに厳しいものになっていたのではないかと。

こんな指摘がある。アベノミクスの失敗の本質は二つ考えられるという。一つは、現代は金利が発生しない。つまり、生産過程で利潤を生み出す力の弱い異形の資本主義だということである。二つには消費の減退。少子高齢化と経済活動の成熟化、そして若年層の貧困により、潜在的な消費需要が著しく減退している。この現

代資本主義の構造矛盾と、日本の消費減退化という二点が本質的な課題だというのだ。アベノミクスはこの課題に無為無策であったというのだが、小生にとってはかなり難しい。さらに勉強をしたいと思っている。

アベノミクスは今、加速する状況にはなく見直す時である。しかるに、安倍内閣はあげて「インフレ期待」の国民を煽ってこの参院選での大勝を目論んでいる。果たして「柳の下」にいつもドジョウがいるのかな？

アベ政権3年半で税収21兆円増ってホント？

安倍政権は消費増税を2年半延期する決定をした。国会審議などで約束してきた社会保障等の諸施策や財政健全化をどうするのかとの質問に安倍首相は「我々が進めてきた経済政策によってこの3年半で税収は国と地方を合わせて21兆円増えた。…さらに、アベノミクスを進めることで成長と分配の好循環を実現していく」と、誇らしげに胸を張って応答していた。

国会でその内訳が詳細に分析されるのを待ちたいと思う。しかし、少なくとも2014年4月から消費税率を5%から8パーセントへ引き上げた分が年8兆円あるということをよもや忘れてはならないやろうな？ バブル崩壊で多額の赤字を計上したメガバンクなどが、過去の赤字と課税対象年度の黒字を相殺して、法人税の納付額を減らす「繰り越し決算金制度」を利用していたが、2010年度以降、相次いで納税を再開した分もその税収増に含まれるよな。5月1日付の「考RON」で紹介したあのトヨタも2013年度分から納税を再開したように、「外国子会社配当益金不算入制度」のカラクリも知りたいところである。



財政問題ではっきりさせてほしいことがある。黒田東彦総裁率いる日銀の異次元緩和措置でばらまいた金の始末のことだ。「2年で2%の物価上昇」とぶちあげて市場から国債を買い上げてきた。その額は3年余で200兆円を超える。この金が円安を作り、株価を上昇させてきた。上がらなかったのは、日銀目標「2年で2%の物価上昇」だけという結果は笑い話で済まされない。こうした200兆円超の見返りが21兆円の税収増というのであれば、小生は暴れてみたいが、もう体力がない。子や孫の未来をこんな形で先食いしていいのか。

頭隠して尻隠さず。アベの本音は「改憲」

今次の参院選。“二度あることは三度ある”ことになるのか。安倍首相は「アベノミクスを最大の争点とし、消費増税先送りの判断について国民の審判を問う」と、ぬけぬけと言い放った。厚顔無恥な人間には、その人にふさわしい仕打ちでお返ししなければ、というのが小生の生き方だ。忘れないでおきたい。3年前の参院選で「デフレからの脱却を！」と叫び、アベノミクスで好景気を待ち望む人々をくすぐり、自民党は大勝した。その返す刀で「特定秘密保護法」を強行成立させ、「集団的自衛権の行使容認」を閣議決定したことを忘れまい。

2014年の衆院選では消費税の10%の引き上げを延期し、解散を断行。国民に信を問うとした。「景気回復、この道しかない」と煽って、アベノミクスを前面にかざした戦術を展開し、またまた大勝利した。その直後から「安保関連法案」をゴリ押しして、数の力で衆・参を抑え込んで成立へと導いた。忘れられない屈辱である。

そして、今次参院選である。“二度あることは三度ある”とばかりに、同じ戦術で安倍政権は襲いかかってきた。公約でないとウソぶき、消費増税を再び延期し、参院選で国民の信を問うのだと言うていなさるのだが、「国民」はどうするのか。“アベノミクスのエンジンを最大限ふかす”がまたまた表看板になっている。この看板に隠されているのは「憲法改悪」であることも勿論誰もが知っていることではないか。

歴史の節々で、民の怒りが爆発してきたことがあった。「窮鼠猫を噛む」ときが近づいているのではないかとつくづく思う。“アベさん、なめたらあきまへんで”と、心胆を寒からしめる仕返し、…夢ですますことのないよう唯々祈るしかない。